

## 小袋谷の村役場

成福寺の本堂に村役場が設けられたのは、それまで県内の地域を大区小区に分けていたのをやめ明治十一年に郡区町村に編成した頃ではないかと思えます。かまぐら子ども風土記にはこの辺りの村役場発祥の地といえると書かれています。初めは小袋谷村と近隣の村で組合を作っていました。明治二年には十カ村の組合村役場となりました。二二年の町村合併でそれらが小坂村と玉縄村に集約されて、成福寺の門には小坂村外一カ村組合役場の看板をかけていたそうです。

大正六年、小袋谷踏切そばの台市場側にあつた新築の建物へ移りましたが、関東大震災で倒壊してしまい、踏切そばの小袋谷側にあつた登記所に一時避難した後、小坂小学校校舎に移しました。

震災復興後、大正十五年に水堰橋のそばに大船田園都市(株)の設計で当時としてはかなりハイカラな新庁舎が村役場として建てられました。その後、昭和八年に大船町の町役場となり、終戦後の昭和二三年に大船町が鎌倉市に併合され鎌倉市役所大船支所に変わりました。

勤労福祉会館(レイウエル鎌倉)が完成した昭和四九年に大船支所はその一階に移転しました。会館には大船図書貸出所も設けられました。現在の大船行政センターへは建物が落成した昭和五七年に移り業務を開始しました。